

根室市



市制施行
昭和32年8月1日

市名の由来 根室の地名は、アイヌ語「ニムオロ」（樹木が繁茂するところ）に由来する。

市章 「ロ」6個を円形において「ムロ」を表わし、中央の「ネ」字の端と連携をとって「ネムロ」とし、赤色は光輝く未来への発展を表わしたものです。

根室港シンボルマーク



PORT OF NEMURO

作者
岩瀬賢悟
(栃木県 栃木市)

デザインの意味 (平成5年12月18日制定)

波と海鳥を組み合わせて根室港（NEMURO）の頭文字（N）をシンボリックに表現。大きな波と海鳥のはばたきは国際港根室として未来への夢と飛躍を象徴した。右側の海鳥は濃紺、左側の波はブルーの色彩。下部は黒で PORT OF NEMURO の文字を配している。

自然状況

位置・地勢： 本港の根室港区は、北海道の最東端、北緯43度20分37秒、東経145度34分39秒のオホーツク海側に面し、一方、花咲港区は、根室港区の背後、北緯43度16分42秒、東経145度35分19秒の太平洋を臨む位置にある。当港の位置する根室半島は、長さ28km、幅4～8kmの半島で、標高50～80mの低平な海触台地からなり、太平洋とオホーツク海を二分するかたちには張りだしている。

地質： 本港、根室港区側の地質は、大部分岩盤であるが、花咲港区側の地質は、数mの細砂からなる表層と、それ以深の泥岩により構成されている。



根室港区

事業概要

根室港は北海道最東端の地、納沙布岬のある根室半島の基部に位置する重要港湾で、オホーツク海側の根室港区と太平洋側の花咲港区からなっています。

本港は、北方海域を対象とする漁業基地及び根室市を中心とする生活関連物資の流通拠点港として重要な役割を果たしています。また、貿易港としても古くからの歴史をもっている港湾です。

近年の漁業情勢の変化から省エネルギー船舶の増加に対応するため大型岸壁の建設を求められ、また、原魚の確保、外来船の誘致を図るなど地域経済活性化のため、港湾の整備促進が期待されており、更に国内はもとより北方圏諸国との文化・経済の交流が活発になり、平成3年度から北方四島との交流事業（ビザ無し渡航）の実施、また CIQ 機能の充実により外国貿易船による輸入水産物の拠点港としても利用されております。

平成4年には港湾計画を見直し、水産業や酪農業の一次産業及び関連する加工業を中心とした産業の振興、更には国内はもとより北方圏諸国との文化経済交流などの深い結びつきにより、根室地域における物流・人的交流の拠点港として、機能充実と産業基盤の拡充により、背後地の活性化に先導的役割を果たすべく、次の基本方針をもって、今後港湾整備を推進することとしています。

- ①北方圏諸国との交流拠点港
- ②産業振興を支援する港
- ③災害に強い港づくり
- ④豊かな生活空間を形成する港



花咲港区